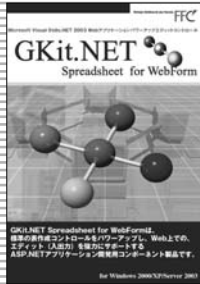


# Products Review



ASP.NETアプリケーション開発用  
表作成コンポーネント

## GKit.NET Spreadsheet for WebForm

精進湖計算機 立中 秀樹 TATENAKA, Hideki

### Software Information

|      |  |
|------|--|
| OS   | Windows 2000/XP<br>Windows Server 2003   |
| 開発環境 | ・ IIS 5.0/6.0<br>・ .NET Framework 1.1<br>・ Visual Studio .NET 2003 (VB.NET/C#) |
| 運用環境 | クライアント (ブラウザ) :<br>Internet Explorer 6.0 SP1                                   |
| 価格   | 102,900円 (1開発ライセンス)  |

### はじめに

WebFormを利用するASP.NETの登場により、これまでWindowsアプリケーションの開発だけを行っていた開発者でもWebアプリケーションを容易に構築できる環境が整いつつあります。また、クライアントPCの管理が楽なWebシステムの構築も一般的になってきました。

以前に比べると、格段にリッチになったWebアプリケーションのインターフェイスですが、やはり既存のWindowsアプリケーションと比べると制約も多く不満点があります。

その原因のひとつが“日本の罫線文

化”にあります。書類/帳票には必ずといっていいほど罫線が使われ、それが複雑で込み入った形式であることも珍しくありません。

さらに、印刷される罫線と同様の入力フォーマットが好まれるのもやっかいな点です。とくに伝票入力においては1レコードを複数行で表示したり、複数のセルを連結して利用するような形態が求められます。

このような複雑な罫線を持つ表は、Visual Studio標準のDataGridだけでは表現できず、テキストボックスなどの入力コントロールを配置してスクロール処理を自前で実装するなど、実装に多くの手間をかける必要があります。

### 問合せ先

株式会社FFC

TEL : 03-5324-1605

FAX : 03-5324-1655

URL : <http://www.ffc.co.jp/products/gkitnet/>

MAIL : [gkit@ml.ffc.co.jp](mailto:gkit@ml.ffc.co.jp)

今回は、このような悩みを解決する「GKit.NET Spreadsheet for WebForm」(以下Spreadsheet for WebForm)を紹介しましょう。

### Spreadsheet for WebFormとは?

Spreadsheet for WebFormは、WebForm専用の表作成コンポーネントです。主な機能は、表1のとおり。標準の

### Technology Tools

- Visual Basic
- Visual C#
- Visual C++
- SQL Server
- Oracle
- Access
- ASP.NET
- Other:

表1 : Spreadsheet for WebFormの主な機能

| 機能        | 概要   |
|-----------|--|
| セル表示      | データを行/列単位にセル表示できるほか、複数行を1レコードとして表示できる。レコード内の上下左右のセル同士を連結することも可能  |
| セル操作      | ショートカットキーによるセルの移動/選択/削除/編集/確定/コピー/ペーストなどの機能をサポート。複数のセルを選択して、データをExcelシートなどにコピー&ペーストすることもできる                  |
| セルタイプ     | セルごとに、ラベル、テキスト、チェックボックス、ラジオボタン、ドロップダウンリスト、ボタンという6種類のタイプを設定できる。テキストタイプでは文字数/数値のチェック、日付や金額など指定した書式による入力チェックが可能 |
| 表作成用デザイナー | GUIベースのデザイナー (スプレッドデザイナー) を利用して表を作成できる。デザイナーを用いず、開発言語 (Visual Basic .NET、Visual C# .NET) を利用して表を作成することも可能    |

図1：スプレッドデザイナーの起動

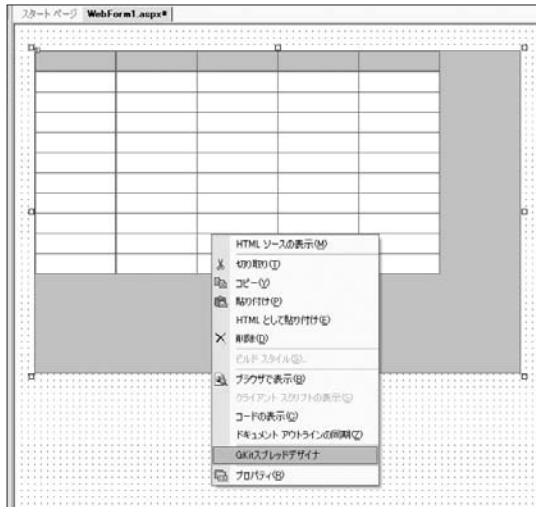
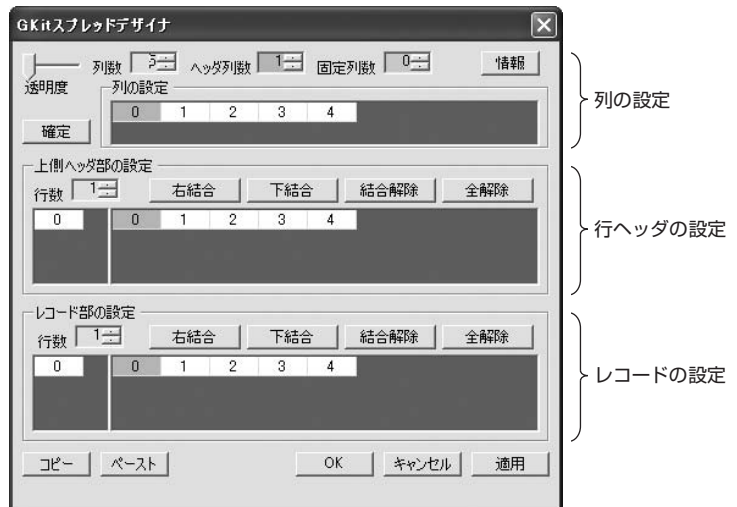


図2：スプレッドデザイナー



DataGridでは面倒なコーディングが必要となる表示系の操作もプロパティ設定などで簡単に実現でき、連結セル内に複数のセルタイプを混在させることも可能です。

以降で、実際にSpreadsheet for WebFormを利用して、これらの機能を試してみます。

## Spreadsheet for WebFormの利用準備

Spreadsheet for WebFormでアプリケーションを作成するためには、事前に以下の作業を行なう必要があります。

### ①Scriptsフォルダのコピー

Spreadsheet for WebFormをインストールしたフォルダの配下にあるScriptsフォルダをフォルダごと、作成するアプリケーションのプログラムソースファイルの配置フォルダにコピーします。

### ②ツールボックスへのコントロールの追加

ツールボックスのカスタマイズダイアログで、Spreadsheet for WebFormコントロールのDLLモジュールである“FFC.GKit.Web.Spreadsheet.dll”を選

択してツールボックスに登録します。

## スプレッドデザイナーの利用

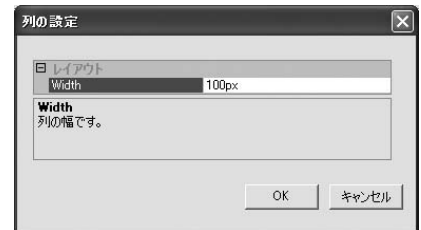
利用準備が整ったら、さっそくSpreadsheet for WebFormのスプレッドデザイナーを使ってみましょう。

表のデザインはすべてコードで記述することもできますが、Spreadsheet for WebFormにはGUIで表をデザインできる「スプレッドデザイナー」があります。スプレッドデザイナーを利用すれば、結果イメージを確認しながら表をデザインできます。セルを連結したり、1レコードを複数行で表示したりする場合などは、デザイナーを用いて表をデザインすれば開発効率も格段によくなります。

ここではスプレッドデザイナーを用いて簡単な表を作成してみます。はじめにVisual StudioでASP.NET Webアプリケーションの新しいプロジェクトを作成します。

続いて、Spreadsheet for WebFormのコントロールをフォームに貼り付け、コントロールを右クリックして [GKit Spreadsheet Designer] を選択し、スプレッドデザイナーを起動します (図1)。

図3：列幅の設定



スプレッドデザイナーでは表の外観をデザインできますが、設定できる項目は主に列数 (列ヘッダ数、固定列数を含む)、行ヘッダ、レコード部の3つに分かれています (図2)。

### ■列の設定

はじめに“列の設定”で「列数」を設定します。デフォルトで4列が設定されていますが、8列に増やして [確定] ボタンをクリックすると、スプレッドデザイナー上で列が増えたのが確認できます。

スプレッドデザイナーに表示されている各セルをダブルクリックすれば、列の幅を設定するダイアログ (図3) が表示され、列ごとの幅を指定することもできます。

### ■行ヘッダ/レコード部の設定

標準のDataGridでは、ヘッダの形状